R4 1

次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．建築士は、他人の求めに応じ報酬を得て、建築物の建築に関する法令に基づく手続きの代理を行う場合、建築士事務所に所属する必要がある。

2．建築士は、設計契約を結んだ委任者に対し、法律に定められていない内容であっても、建築士として一般的に要求されるだけの注意を尽くす義務がある。

3．建築基準法は、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、公共の福祉の増進に資することを目的として、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する平均的な基準を定めている。 ✕

- 第1条（目的）
- 最低の基準

4．我が国において 2050年までのカーボンニュートラルの実現のために、建築物においては、省エネルギー性能の確保や向上への取り組み、また、再生可能エネルギーの導入拡大等が求められている。

R3 1

次の用語に関する記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．SDGsは、誰一人取り残さない、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の 17の開発目標からなり、その目標の一つに「持続可能な都市」がある。

2．QOLは、近年、生活の質的向上を目指そうとする気運の高まりとともに、建築計画において も、医療福祉等の分野で重要性が増している。

3．ZEBは、資源の有効な利用を確保する観点から、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する 法律」（建設リサイクル法）によって定められた分別解体及び再資源化等の実施義務の対象となる建築物のことである。

4．重要伝統的建造物群保存地区における「修景事業」は、伝統的建造物以外の建造物や新築される建造物が歴史的風致と調和するよう、外観を整備するために行う事業のことである。 ✕

R2 1

建築士の職責、業務等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．建築士は、新たにつくる建築物について、長期間の使用に耐えるように建築計画の初期段階から十分に検討を行い、完成した後も継続的に適正な維持管理が行われるように配慮する必要がある。

2．建築士は、他人の求めに応じ報酬を得て、建築物に関する調査及び鑑定のみを業として行う場合、建築士事務所に所属せずに業務を行うことができる。 ✕

3．建築士は、違反建築物の建築等の法令違反行為について、指示をする、相談に応じる等の行為をしてはならない。

4．建築士は、設計者ではなく施工者として建築基準関係規定に違反する工事を行った場合であっても、建築士法により業務停止処分を受けることがある。

R元 1

建築及び都市の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．ソシオペタルは、複数の人間が集まったときに、異なる方向に身体を向けて他人同士でいようとするような位置関係をいう。 ✕

2．ユニバーサルデザインは、全ての人を対象としたものであり、障がいの有無、年齢や体型の違い、身体機能の差等に関係なく、可能な限り誰もが利用できるデザインをいう。

3．パッシブデザインは、建築物自体の配置・形状、窓の大きさ等を工夫することにより、建築物内外に生じる熱や空気や光等の流れを制御し、暖房・冷房・照明効果等を積極的に得る手法をいう。

4．スマートシティは、広義では、都市が抱える諸課題に対して、情報通信技術等を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体の最適化が図られる持続可能な都市又は地区をいう。

H30 1

建築士法に規定されている建築士の職責等に関する記述の ［A］～［D］する語句の組合せとして、正しいものは、次のうちどれか。

建築士法第 2 条の 2

「建築士は、常に品位を保持し、業務に関する法令及び実務に精通して、［A］に寄与するように、公正かつ誠実にその業務を行わなければならない。」とされている。また、同法第 21条の4において、「建築士は、［B］を害するような［C］をしてはならない。」とされ、同法第 22 条第 1 項においては、「建築士は、設計及び工事監理に必要な［D］の維持向上に努めなければならない。」とされている。 ○3

A；建築物の質の向上、
B；建築士の信用又は品位、
C；行為、
D；知識及び技能

R5 1

建築士の行う設計業務等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．建築士は、建築に係る専門家として、非専門家との間の知識や情報等の格差を埋める責任があり、アカウンタビリティ（専門家としての説明責任）の実践が求められる。

2．建築士は、本来、国家資格者にふさわしい国民の生命や財産を守る技術的資質や能力を自ら保持すべきとされ、同時に業務独占を賦与された資格者として高い倫理性を求められる。

3．プロジェクト達成にとってのリスク（不都合な情報）の積極的な共有による集団内での意思疎通をリスクコミュニケーションといい、その実践が特に重要である。

4．建築士が専門家として建築関連の法令を遵守する基本的な態度をコンプライアンスといい、遵守すべき対象は法令に限定されている。 ✕

技術者の倫理

- 建築基準法（目的）
  - 法2条
- 善管注意義務
- 建築事務所（登録）
  - 23条の1項
  - 報酬を得て；手続き等
- 懲戒　士法10条1項
- 職責　士法2条の２　公平かつ誠実
- 設計及び工事監理　士法18条
- 違反行為の指示等禁止　士法21条の３
- その他の業務
  - 士法21条
  - 調査または鑑定
- 信用失落行為の禁止　士法第 21条の4
- 知識及び技能の維持向上　士法第 22 条第１項
- 「アカウンタビリティ」
- 「談合」
- 「公益通報」
  - 「内部通報」
  - 「行政機関への通報」
  - 「外部通報」
- 「公益確保の責務」
- 「コンプライアンス」
  - 「法令遵守」
- 「リスクマネジメント」
- 「モラルハザード」
- 「不遵守行為」

用語（政策、トレンド）

- カーボンニュートラル
- SDGs
- QOL
- 重要伝統的建造物群保存地区
- 改正建築物省エネ法
  - 「省エネ基準編」
  - 「誘導基準編」
  - 住宅トップランナー基準
- レジリエンス
- スーパーメガリージョン
- ソシオペタル
- ユニバーサルデザイン
- パッシブデザイン
- スマートシティ
- コーホート要因法
  - 将来人口推計の基本的な手法
  - 年齢別人口の加齢に伴って生ずる年々の変化をその要因（死亡、出生及び人口移動）ごとに計算して将来の人口を求める方法である。

H25 1

建築士が行う建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．建築計画を行うに当たって、建築の目的や意図に応じて、構造、設備、防災等の様々な専門分野の技術を総合的に調整した。

2．集合住宅の計画に当たって、当該地域の生活様式を含めた類似建築物の使われ方等 に関する調査を行い、その分析結果を活用した。

3．診療所の規模計画において、コーホート要因法を用いて待合室を利用する単位時間当たりの外来患者数を予測し、待合室の床面積を算定した。 ✕

4．コミュニティ施設の計画に先立ち、建築主の要請に応じ、施設が提供するサービス、 運営方法等を検討する会議に参加した。

H26 1

建築士が行う建築設計に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．建築物の使い方、架構方式、設備方式、材料、施工方法等、計画段階から施工段階、に至る多面的な要求の分析を分析から得られた知見を様々な条件を考慮して 総合し、一つの具体的な建築空間を提案する。

2．設計案が提供する性能の検討に縮尺模型やシミュレーションモデルを用いる場合、 そこで示されるデータが実際の事物や現象のどのような側面に対応しているかを確認する。

3．設計案の検討中に生じた問題については、既に決定した事項に対しても、その是非 の再検討を行い、必要に応じて、設計案を修正する。

4．実施設計段階においては、主に、建築主から提示された要求と様々な条件とを対応 させてどのような方法によって空間化するかを検討し、それに続く、基本設計段階 においては、主に、設計意図を工事施工者等に伝える図面を作成する。 ✕

H27 1

建築士法に基づく建築士の職責、業務等に関する次の記述のうち、最も不適 当なものはどれか。

1．建築士は、常に品位を保持し、業務に関する法令及び実務に精通して、建築物の質 の向上に寄与するように、公正かつ誠実にその業務を行わなければならない。

2．建築士は、設計を行う場合においては、設計に係る建築物が法令又は条例の定める 建築物に関する基準に適合するようにしなければならないとともに、設計の委託者に対し、設計の内容に関して適切な説明を行うように努めなければならない。

3．建築士は、違反建築物の建築等の法令違反行為について、指示、相談等の行為をし てはならない。

4．建築士は、建築物に関する調査又は鑑定の業務であれば、その業務に関して不誠実 な行為をしても、建築士法の規定による懲戒処分の対象とはならない。 ✕

H28 1

技術者倫理等の用語に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．「アカウンタビリティ」は、一般に、業務や研究活動についての「説明する責任」のことをいう。

2．「談合」は、一定の利益を業界全体にもたらすことを目的とするもので、同業種の業者が資本を結合し、共同企業体を設けることも含む。 ✕

3．「公益通報」には、通報先や状況によって、「内部通報」、「行政機関への通報」及び「外部通報」の三つの種類がある。

4．「コンプライアンス」は、一般に、「法令遵守」と訳され、法令・条例等の遵守に加えて企業倫理等の遵守も含む。

H29 1

技術者の倫理等の用語に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1．「公益確保の責務」は、技術者の倫理的義務の一つであり、「公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮すること」をいう。

2．「リスクマネジメント」は、危機事態が生じた後に速やかに実施するものであり、被 害の最小化、被害の拡大防止、二次被害の防止等が目的となる。 ✕

3．「モラルハザード」は、保険の領域から派生した概念で、近年では、一般に、「倫理観の欠如」と訳され、企業等が節度なく利益を追求する状態をいう。

4．「不遵守行為」は、個人及び組織を含めて意図的に法令や条例等に従わない行為をいう。